

火山防災協議会等連絡・連携会議

**富士山噴火に備えて！
『富士吉田市消防団富士山隊』結隊！！**

令和5年11月14日

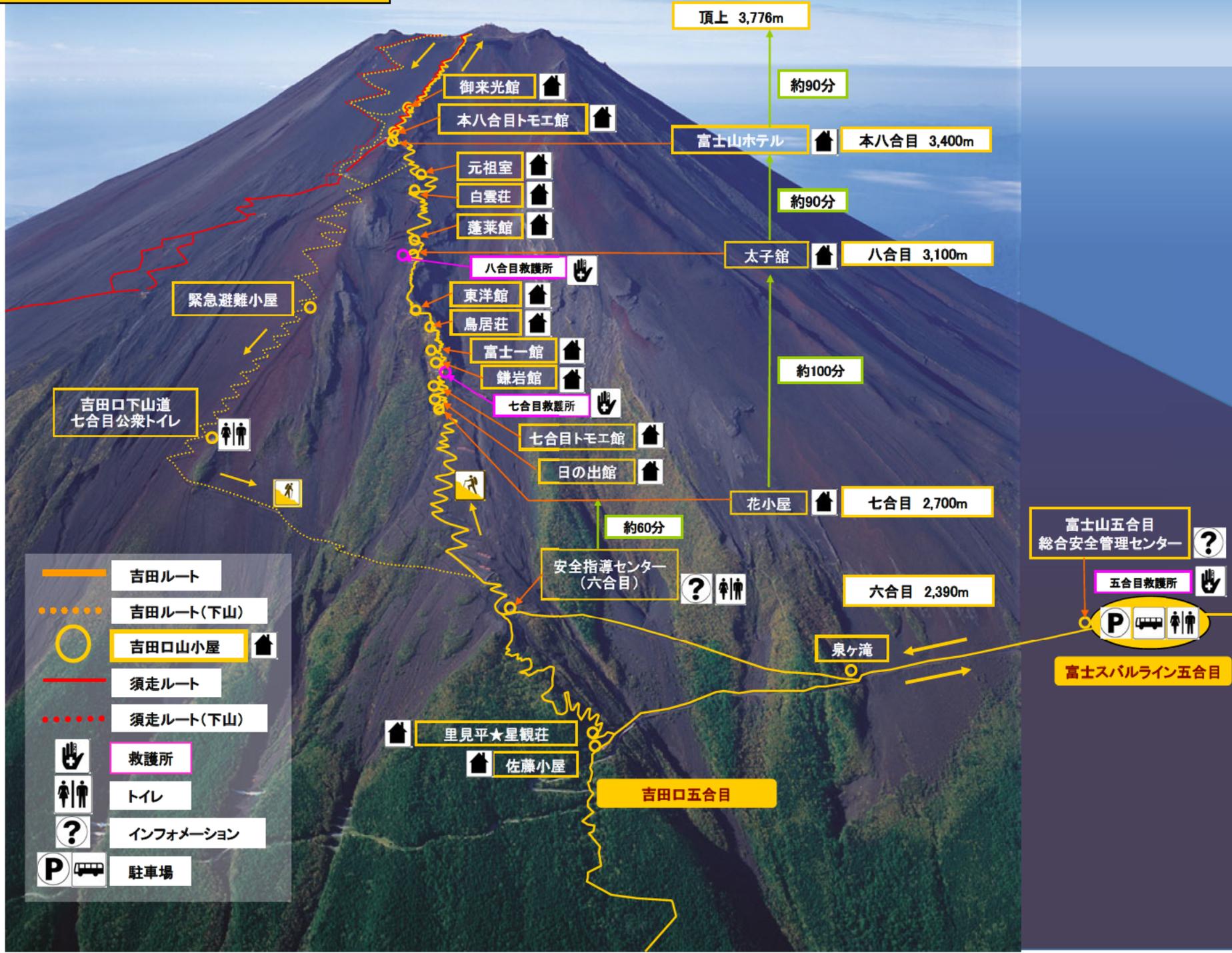
山梨県富士吉田市
企画部安全対策課富士山火山対策室



吉田ルート「黄色表記」の登山道です。

Yoshida Trail

注: 赤色の表記は
吉田ルートではありません。



【富士山（火山）の現況】

- ・ 来訪者環境 ■ 富士スバルライン開通期間：5月～11月（年により異なる）
開山期間（5合目以上）：7月～9月上旬
 - ◎ 五合目来訪者：500万人(R1:県統計)
 - ◎ 登山者：16万人(R1:6合目安全指導センター集計)
- ・ 富士山噴火には多くの不確実性がある（時期・期間・場所）
- ・ 多くの観光客が訪れる富士山五合目は想定火口範囲内にある

登山対象としての富士山の特徴

- ・ 夜間に登山者が集中する
（山頂からの御来光）
- ・ 初心者、外国人などが多い



**避難時の混乱をさけるためにも、
噴火時の避難対策を慎重に検討を進める必要がある**

【これまでの富士山における火山防災対応（一例）】

- ・富士吉田市地域防災計画で山小屋・5合目売店等を避難促進施設に指定

⇒市内にある五合目以上の山小屋・売店
18軒すべて避難確保計画作成済

⇒山小屋は噴火時に来訪者の緊急避難先にもなる。売店も同様。

避難確保計画作成したことで、
施設の利用者や従業員、施設周辺の登山者、観光客に対して、
噴火時における円滑で迅速な避難体制を確立。

【富士山隊創設の背景】

- 富士山火山防災対策協議会において、
令和3年3月に富士山ハザードマップが改定され、
令和5年3月に富士山噴火における避難の基本的な指針となる
『富士山火山避難基本計画』が策定される。

- 山小屋・売店等の事業者から不安の声
 - ◎「民間事業者が来訪者の避難誘導をどこまで責任をもって、
行ってもよいものか」
 - ◎「来訪者が安心でき、次世代に引き継げる環境・体制が欲しい」

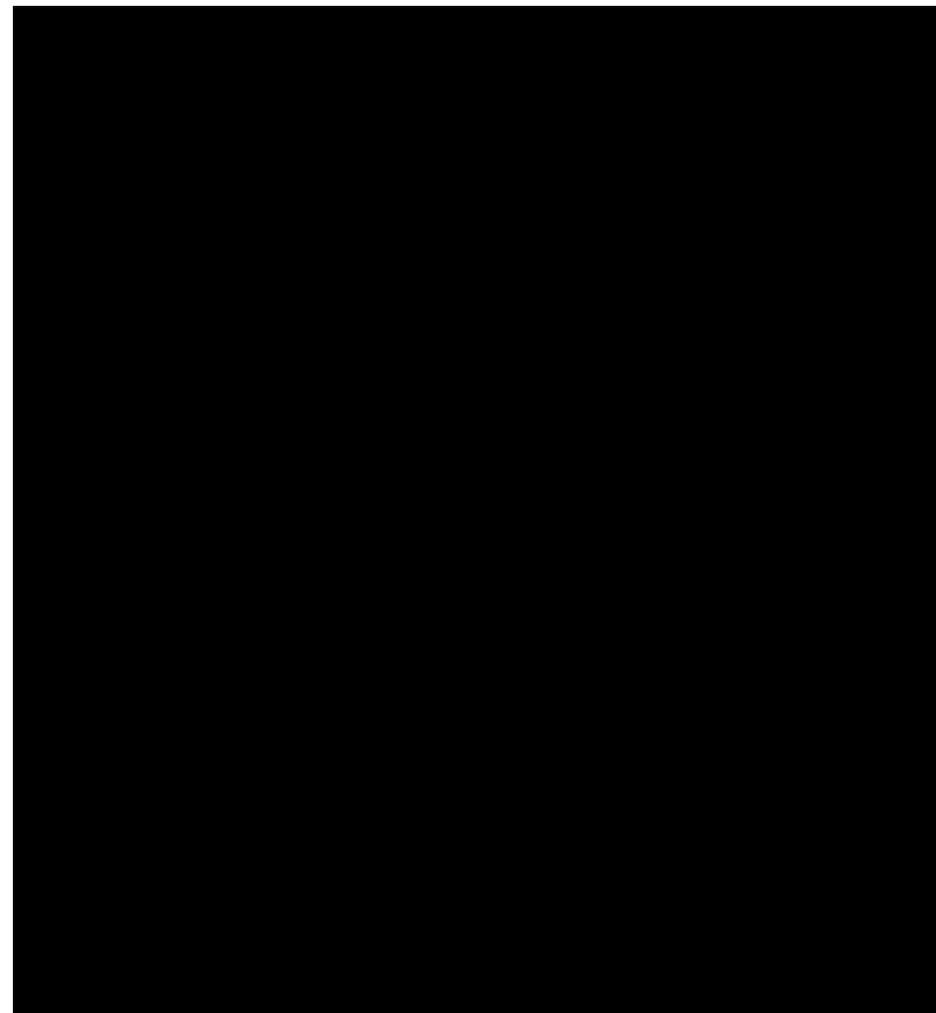
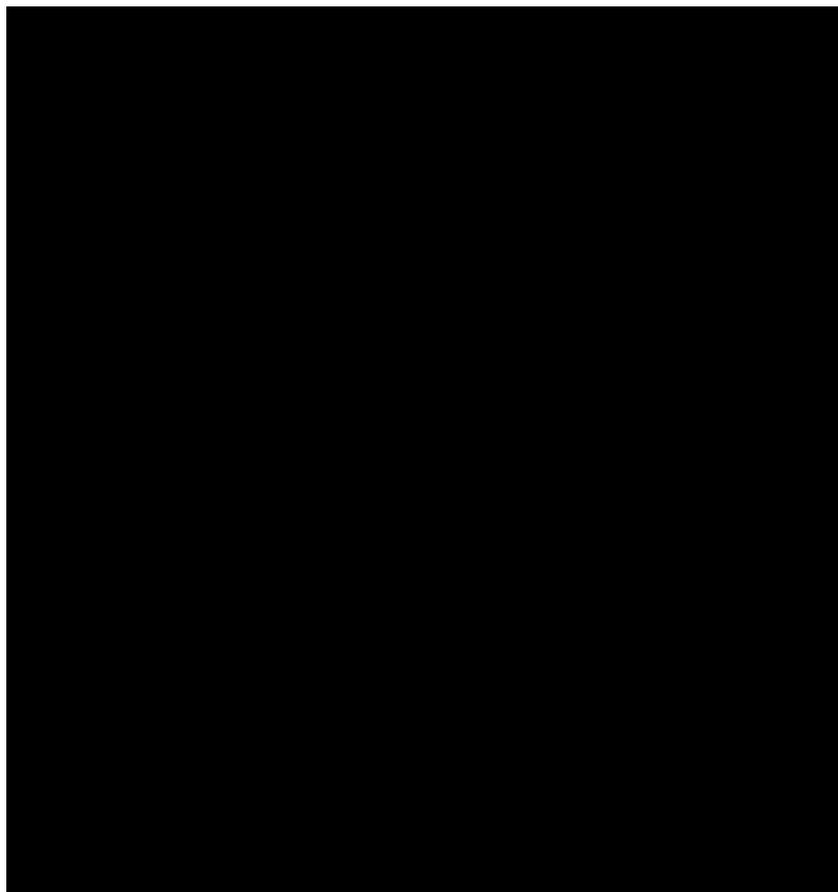
- ⇒ 市としても噴火した際に事業者との連携は必要不可欠
噴火時における避難誘導體制・環境を構築し、
富士山を訪れる人の安心安全に繋げていきたい。

【噴火時における体制の構築】

- ・ 消防団 機能別団員（分団）制度を活用
機能別団員（分団）はそれぞれの能力を生かしながら、
災害時や特定の消防団活動等（任務・役割）を行う団員・分団

⇒ 富士山噴火における円滑な避難誘導に特化した機能別消防団員（分団）

『富士山隊』の結隊



【富士山隊を結隊することにより】

①富士山が突発的に噴火した場合や噴火警戒レベルが上がった際に、現場にいる方々が登山客や観光客の避難誘導等を行うことにより、迅速な避難が行える。

②富士山を知り尽くしている方々が避難誘導を行うことにより、円滑な避難が期待できる。

③噴火時等の避難誘導において事業者は非常勤特別職公務員である消防団員として活動。

⇒ 事業者の不安解消

【結隊にいたるまでの主な流れ】

○事業者への説明

機能別消防団員（分団）制度の説明から、富士山隊の創設により事業者の不安解消、課題解決につながることを、

しっかりとした避難誘導體制の構築は、富士山を訪れる方々への安心安全につながることを説明。

事業者側からも同意を得られる。

○条例の改正

富士吉田市消防団員の定員、任免、給与、服務等に関する条例の一部改正 ほか

任務：富士山噴火時における避難誘導に係る業務

人数：18人

報酬 ■ 年額：10,000円

出動報酬(訓練)：1回2,000円

出動報酬(噴火災害)：8時間以上8,000円、4時間～8時間4,000円、
4時間未満2,000円

今年度、登山シーズン前の5月30日に結団式を実施

【今後の展開】

- ・ 専門家や関係機関等と情報共有や研修を行い、お互いの顔が見える関係を構築する。
- ・ 訓練の実施
 - ⇒ 富士山噴火に対する防災力の向上を図っていくことにより、
安心・安全な富士登山・富士山観光を守っていく。





ご清聴ありがとうございました。

山梨県富士吉田市
企画部安全対策課富士山火山対策室